

各パートナーシップからの活動報告及び 委員からの指導・助言

【第1グループ】

- ・弘前まちなか散策街道 …… 1
- ・十和田奥入瀬浪漫街道 …… 3
- ・奥州街道と縄文のみち …… 5
- ・黄花紅の東むつ湾ルート …… 6
- ・青森エントランスロード …… 8

【第2グループ】

- ・忘れられた道造りの歴史と絶景を
「江戸の旅日記から感じる道」 …… 9
- ・奥州街道 温故知新の道 …… 11
- ・釜石「鉄のみち」 …… 12
- ・監竈海道 …… —
- ・巢子の松街道 …… 13
- ・広瀬川せせらぎ緑道 …… 15

【第3グループ】

- ・のしろ白神の道 …… 18
- ・出羽の古道 六十里越街道 …… 20
- ・越後米沢街道・十三峠 …… 22
- ・菅江真澄と巡るあきたの道 …… 26

【第4グループ】

- ・ふくしま浜街道ハッピーロード …… 27
- ・桑折宿まちなか街道 …… 30
- ・城下町あいづ道草街道 …… 33

ルート名:弘前まちなか散策街道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要
(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

～弘前マルシェ「FORET(フォーレ)～」
【事業主体】 弘前マルシェコンソーシアム
弘前市中心市街地活性化協議会も構成員となっている。
【事業形態】 弘前市からの委託事業
【事業実施場所】 弘前駅前遊歩道(愛称:えきどてプロムナード)
【事業内容】
平成23年7月から11月の毎日曜日10時から15時まで産直マルシェを展開。
回数20回(2回中止)
参加店舗 約20店
<http://www.foret-hirosaki.jp/>

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

遊歩道の積極活用による中心市街地の活性化と農家所得の向上を目指して、弘前市委託事業として実施。「心地よい空間形成」のため、オープンカフェや大道芸、ホルン演奏なども実施。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

農家出店にこだわりすぎており、回を増すごとにマンネリ感が出てきた。農業製品のみならず、魚や加工品、お菓子など幅広い業種の出店が必要であり、次年度以降は募集対象を広げる予定。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。
※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。



ルート名:十和田奥入瀬浪漫街道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

国道102号線沿い沢田地区の歩道花壇約1.3kmをNPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学が中心となり、地域住民とサルビア、マリーゴールド4000本を植えた。この他にアジサイ、ラベンダー、芝桜の多年草も植えた。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

今まで、サルビア、マリーゴールドの1年草を植えていたが、花苗の確保と植えたり、後始末の労力の節約を考えて、多年草に徐々に切り替えていくため。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

花苗の確保と地域住民の協力が少なくなってきているので、多年草に切り替えていく。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

十和田奥入瀬浪漫街道 活動写真



日本風景街道フォーラム開催
平成23年3月



国道102号沿線の景観支障木伐採
平成23年4月



国道102号花壇の花植え
地域住民と連携して実施 平成23年6月



十和田奥入瀬認定ガイド養成講座
現地研修 平成23年6月

ルート名：奥州街道と縄文のみち

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要
(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

* 小川原湖191里づくり協議会との連携

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

小川原湖191里づくり協議会が広域的な着地型観光を目指していることから。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

【問題・課題】上北地域の知名度……………各イベントでのPR

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。
※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

ルート名: 黄花紅の東むつ湾ルート

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要 (新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

東むつ湾海岸清掃実施

日時: 2011年7月8日 AM10:00~11:30

場所: 国道279号 第二田名部街道踏切から海岸線約500メートル

野辺地観光協会と合同で、陸奥湾の海岸清掃を実施。

野辺地町・横浜町・むつ市から総勢45名の参加。

ゴミの分別をしながら4トン車1台分を収集。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

毎年、東むつ湾の自然環境が漂着ゴミ等によって汚れている。

地域の豊かな自然環境を取り戻すために、毎年各市町村単位で清掃活動は行われてきている。

しかし、景観が優れているにも関わらず町の境界線の場所は、清掃活動が実施されない場合が多い。

そこで夏の観光シーズンを前に、野辺地観光協会と合同で野辺地町と横浜町の境界付近500メートルの清掃活動を行うこととした。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

問題と課題

- 1、人員の確保と各団体との連携が難しい。
- 2、ゴミ運搬に使うトラック等、資金の調達が厳しい。
- 3、収集したゴミは塩分を含んでいるため、一般のゴミと一緒にできない問題点がある。

対応方針

- 1、今後、他の団体にも声をかけ行政も巻き込んだ活動にしていきたい。
- 2、資金調達について現在模索中です。
- 3、ゴミの問題点について現在模索中です。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

ルート名: 黄花紅の東むつ湾ルート
2011年7月8日 東むつ湾海岸清掃



開会の挨拶からスタート



海岸から作業開始



粗大ごみもすべて片付ける



ゴミの分別作業



4トントラックへの積み込み作業



作業終了

ルート名：青森エントランスロード

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要
(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

ねぶた祭り期間中限定で、沿道に提灯の設置・点灯及び道路中央の遊歩道スペースにテーブル等の設営した。日中は休憩スペース、夜は観賞スペースとして好評を得ている。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

ねぶた期間中に、青森らしさやにぎわいの創出を目的として提灯を設置し始めた。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

提灯の設置・撤去は町内の有志で実施しているが、一部委託費(足場の設置等)が伴う。また、レンタルのテーブル・イスに限りがあり、数の確保に苦慮している。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。
※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付していただいても構いません。

ルート名：忘れられた道造りの歴史と絶景を「江戸の旅日記から感じる道」

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

・本年度は新たな取り組みが出来ませんでしたので、今まで継続して実施してきた活動を報告します。

・「106の日ウオーク」の実施

開催日時：10月6日(毎年必ずこの日に実施)、午前8時30分～午後4時30分

募 集：宮古市広報

参加人数：51人(宮古市民)

参加費用：2,500円(例年は2,000円未満、今年度は震災の関係で宮古市のバスが利用出来なかった為)

内 容：もりおか歴史文化館企画展見学、新築川道路・川目道路見学

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

盛岡市から宮古市までの国道106号を広く周知することを目的に、NPOの会員や地域の人たちと「106の日」を制定し、10月6日に106号の歴史と文化に関する活動として実施。宮古市の広報での参加の呼びかけや、バスの貸与等の大きな協力もあり例年多数の参加希望者がある。今年度は、震災もあり実施を控える事も検討したが宮古市民から直接実施して欲しいとの要望もあり、実施した。今後の課題としては、盛岡市民の106号への関心を高めるための企画や広報も必要。

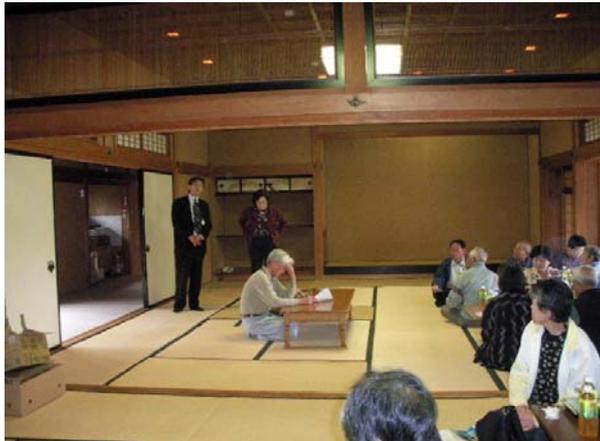
3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。



106の日ウオーク(中央公民館)



106の日ウオーク(中央公民館)



106の日ウオーク(築川)



106の日ウオーク(築川)

ルート名： 奥州街道温故知新の道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

- ・平成23年度は、震災の影響もあり、予定していた活動の延期や中止等があった。
(関係者が復興支援活動に重点を置いた団体もあったため。)
- ・街道歩きを楽しむ方のため、継続していた古道の整備・復旧活動では、
県内の活動団体が、岩手県一関市の奥州街道沿いの古道の整備活動を行い、
崩れていた古道の補修と、手づくりで橋を設置した。
- ・地権者への連絡等には地元団体の協力が、橋の設置には企業等の協力を得た。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

- ・風景街道の登録当時から、地元の地域資源の保全と、街道歩きを楽しむ旅行者
増加をめざし、古道の整備・保存活動に努めていた。
そのほか、歩きやすい道づくりのため、看板設置作業なども実施した。
- ・これまで、岩手県二戸市、一戸町と、隣接する青森県三戸町での活動、
岩手県一関市と、隣接する宮城県栗原市と連携した活動などを実施してきた。
活動が定着しつつあり、草刈りなどの維持活動は、地元の団体等がその後
継続するようになり、徐々に、整備範囲を拡大してきた。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

- ・今後、活動を独自に続けていくには費用がかかる。(設置、維持管理)
→ 整備や設置等に関しては、企業から協賛をいただく方法なども検討したい。
また、維持管理には地元住民の協力を得て、定期的に行うことが必要である。
- ・地権者を明らかにし、了承を得る必要がある。
→ 地元市町村の理解と協力、地元団体との連携を密にすることが重要である。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

ルート名:釜石鉄のみち

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要
(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

「釜石鉄のみち」としての活動は休止状態であったが、PSの拡大に努めた。
橋野町振興協議会の加盟内諾。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

このたびの東日本大震災では、被災直後から釜石の中山間地域の人々による被災地への支援が、被災された方々の復興に大きな力となっていた。このようなことから、被災地や県外等と風景街道周辺地域がこれまで以上に連携・交流することで、復興の一途となると考えたため。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。
※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

ルート名: 巣子の松街道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

松並木の樹木について、交通への危険木点検の第2巡目を今冬から着手した。完了した1巡目で対象とした危険木候補は、樹体に割れや腐れなどの欠点があったり、幹の傾きが大きかったり、不安定な立地(土塁上)にあるものを対象としたが、今回の2巡目からは、比較的正常と見られるものも含めて点検対象木を大幅に増やすこととしている。国道4号の西側・東側の全体で、数千本を対象に危険度などをチェックして行く計画としている。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

国道4号の盛岡北道路の拡幅工事[北拡幅]に伴って、松街道の主に西側並木の樹木の一部が伐採され、その地表地形も土木工事で大きく改変されることとなる。これは、松街道の景観や生態系に対して大きく影響するダメージとなるので、その工事による並木の損傷を最小限に留めるための配慮が必要である。並木の樹木はその景観や生態系の最重要なキイファクターであり、今後の保全対策を考えるためにも、基礎資料となる並木の樹木戸籍簿を整えることを目指して取り組むもの。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

松街道の価値を最大限保全するために、施工者側(国交省)との意見交換等で、相互理解と的確な方策などを深める努力をしたい。そのためにも、施工者からの詳しい情報提供を望みます。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

危険木点検の状況



ルート名: 広瀬川せせらぎ緑道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

前年に取組みを開始した周辺市街地の「蔵調査」を、東日本大震災後に継続して行った。「蔵が存在する懐かしい景観を残し、地域の貴重な資源として認識されるような機会を創る」事を目的とし、東日本大震災後の蔵の存続状態を再度確認致し、前年の蔵調査のデータと照し合せて整理した。

今年度の取組みは、蔵調査の結果を多くの皆様に周知して頂く事で、今後、保存の取組みへと繋がるように、また、所有者の皆様との交流を深める機会となるようにということも目的としたため、市街地の地図に蔵の所在地と写真を掲載してまとめ、更に建築的・景観的視点から紹介したい蔵を12点選定し、写真パネルを作製し写真展を開催した。

写真パネルの作製にあたり、12点の蔵については所有者へのヒアリングを行った。

2. 上記1. の取組みを開始した背景

前年「まちなか博物館1号館」オープンにあたり、専門家が周辺地域の資源調査として、市街地の蔵の存在に気が付き、当会と協働で調査を行ったところ、40戸以上確認された。そのご、東日本大震災に見舞われたため、蔵の被害も多かったため、改めて調査を行い、現存状態をまとめて、まちなかの資源提起を行うことにした。

3. 上記1. の取組みに関する問題・課題とその対応方針

地域資源としての「蔵」の存在を提示することにより、「今後活用したほうが良い、保存していきたい」という興味を喚起する事が出来た。しかしながら、蔵の保存や活用には、所有者の負担が大きいという課題も顕著になった。

今後、まちなかの景観保存の観点から、市をはじめ、地域や所有者と協働で活用や保存できるような取組みに繋げていけるような役割を当会が担っていけるいうに取組んできたい。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

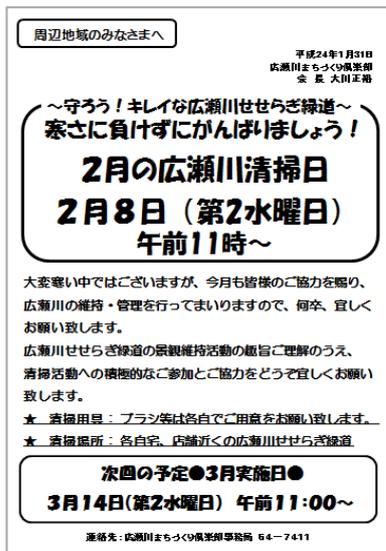
※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

広瀬川まちづくり倶楽部 平成23年度活動記録

1. 広瀬川せせらぎ緑道の維持管理、清掃活動

●毎月の清掃チラシ（実施日：毎月第2水曜日 11時～）

●活動の様子



2. まちなか博物館1号館・修景実験活動

●まちなか博物館1号館・南側シャッターの修景作業

まちなか博物館1号館・南面シャッター修景デザイン提案-その4



●修景前



●修景後



3. 市街地の「蔵調査」とまちなか博物館1号館での蔵写真展

●蔵調査結果



●写真展の様子



北上市・まちなか蔵のあるまち
「まちなか博物館1号館」を
ご利用ください！

蔵写真展

まちなか博物館1号館 入場無料
 日時 ●三月十八日(土)・十九日(日)
 開演時間 ●午前10時～午後三時
 企画 ●まちなか博物館 企画
 北上市・まちなか蔵のあるまち
 日時 ●三月十六日(月)・十七日(火)
 ●三月十八日(水)・十九日(木)
 ●三月二十日(土)・二十一日(日)
 会場 ●まちなか博物館1号館
 主催 ●広瀬川まちづくり委員会
 協賛 ●まちなか博物館、北上市、まちなか蔵のあるまち、まちなか蔵のあるまち協議会
 問い合わせ ●まちなか博物館 電話 023-622-1111

「まちなか博物館」を
ご利用ください！

●まちなか博物館1号館は、利用時間外は閉館です。
 ●展示の都合により、一部の写真が変更される場合があります。
 ●展示の都合により、一部の写真が変更される場合があります。
 ●展示の都合により、一部の写真が変更される場合があります。

まちなか博物館
 〒987-0801 北上市本町一丁目1番1号
 TEL 023-622-1111

ルート名: のしろ白神の道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

- ・東日本大震災で風評被害に苦しむ会津若松の支援活動として、各種イベント(嫁見祭り、のしろまち灯り)や、朝市(6月～11月までの毎週日曜日)にて特産品の販売を実施。
- ・主催イベントであるのしろまち灯り(夏)の会場周辺の歩行空間整備として、昨年度のウッドチップ舗装の試験施工に引き続き、木製乱横断防止柵のタイプや木製スノーポールを提案し、木の香る道づくり事業(国交省事業)にて整備が実施された。
- ・毎年5月に開催される能代カップやインターハイ(7月)に木製機材の提供と活動PRを行ったほか、客船飛鳥Ⅱ来航(9・11月)では上記のほか物販や夜間のスギ灯り点灯も実施した。
- ・H24.2.11開催予定の、のしろまち灯り(冬)では、年々地域に浸透し、参加協力団体が増加しており、地域のイベントとして定着しつつある。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

- ・今までの風景街道活動を通じ、良好な関係が構築されており、支援になる活動の実施を検討した結果、特産品の販売を実施することとなった。
- ・木の香る道の創造、木材の新たな活用方法、地域の顔となる景観を市民や市・県などに広く提案するため。
- ・これまでの活動では交流人口増加のための取り組みや内外への活動PRが手薄だったため。また、ネットワークの活動とその効果が認知されはじめ、能代市関係課から協力要請があったため。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

- ・被災地へは継続的な息の長い支援活動が必要と考えているが、物販で売れる品物は限られており、来年度以降の実施方法及び実施内容について検討が必要。
- ・来年度までは(財)高速道路交流推進財団からの支援金が十分にあり、活動の実施に対し資金不足に陥る状況ではないが、それ以後の活動資金確保について検討が必要。(風景街道協議会からの資金調達に対する情報提供も必要)
- ・イベントに使用する木製品については、ストックが確保できている状況であるが、会場の設営等の人数確保や、イベントを継続していくための資金確保が課題であり、ボランティアの募集や資金確保の方策検討が必要。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

能代嫁見まつり
花嫁の行列
きらびやか

会津若松特産品フェアも
能代市指扇の目黒神社(一)の申挙斎行が、
てい目、開神社「嫁見まつり」(中)の申挙斎行が、
午後、市内の露店で、
「きらびやか」花嫁の行列



飛鳥II来港

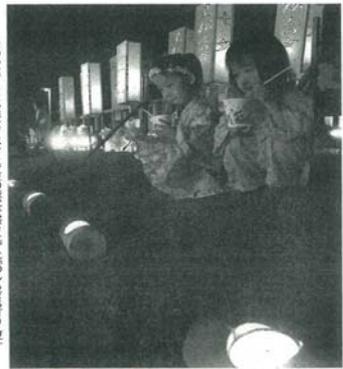


飛鳥II来港



花嫁衣裳に身を包んだ花嫁は、中はずんずん、
が境内を歩いた嫁見まつり
一人が神社に参る。八森
人新婚に手引がなる。八森
ケイホの縁に包まれた花嫁を
ゆっくと進んで、参道の
カランカランのせいじら
ラッシュがたれた。今日は
東日本大震災があったことが
ら開市町祭り「花嫁」な参り
を販売した。結婚しては
去年に結婚した
女性が、結婚への
感謝と華やかな
生活を送るに
に参る。花嫁まつり
今年、市内で
な東京の華やかな
飾り物に、重
かさのついた
物が、花嫁の
物に、花嫁の
を、花嫁の

秋田新報23年5月17日 (火) 18面



のしろまち灯り
夏の夜を幻想的に
屋台村は
内容豊富
福島応援フェアも盛況

ときめき隊朝市



屋台村は、内容豊富、福島応援フェアも盛況
屋台村は、内容豊富、福島応援フェアも盛況
屋台村は、内容豊富、福島応援フェアも盛況

北羽新報23年9月6日 (土) 1面



インターハイ



能代カップ

ルート名:出羽の古道 六十里越街道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

10/22～23に、六十里越街道フォーラムを街道の要所である注連寺で開催した。

このフォーラムは、六十里越街道1200年の歴史の流れの中で、人々の交流と文化には様々な世評の繰り返しがあり、その中で自然への畏敬の念は変わらず、生命をつなぐことの大切さから共存の風土が生まれてきたとする理念を信条に、名画「ゴジラ」を通し人類へ警鐘を鳴らした鶴岡市七五三掛出身の映画監督『本多猪四郎』に焦点をあて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災によって人類に突きつけられた課題を考えながら六十里越街道の魅力に迫る目的で開催した。

初日の第一部は、フォーラムの講師として、本多氏の長男で(有)本多フィルム代表の本多隆司氏を招き、偉大な映画監督を育んだ六十里越街道の魅力を語っていただいた。

第二部は、街道周辺に伝わる郷土芸能の鑑賞と郷土料理に舌鼓を打ちながら交流談義が行われた。二日目は、街道に当時の茶屋を再現し多くのトッレカーの参加のもとに紅葉の中で街道探訪会が開催された。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

街道が生んだ著名な人物に焦点をあてながら、人物を育んだ風土や自然環境に触れていただく機会を創出し街道の魅力アップに繋げることが大きなねらいである。今後も、この視点でシリーズ化が出来ないか検討している。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

このフォーラムがきっかけとなり、有志が実行委員会を組織し、注連寺に名画「ゴジラ」の監督である本多猪四郎氏の偉業を讃える記念碑が今年5月に建立される予定であり、さらなる街道の魅力アップが期待される。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。



(説明)

平成 23 年 10 月 22 日 (土)

出羽の古道 六十里越街道

フォーラム

(I 部) トークショー

講師：(株)本多フィルム代表本多隆司氏

『六十里越街道が育んだゴジラの
世界』

父が遺した未来への警告

参加者 53 名



(説明)

平成 23 年 10 月 22 日 (土)

出羽の古道 六十里越街道

フォーラム

(II 部) 六十里越街道が伝える

食文化交流談義

祝舞：田麦俣「三山神楽」の上演



(説明)

平成 23 年 10 月 22 日 (土)

出羽の古道 六十里越街道

フォーラム

(II 部) 六十里越街道が伝える

食文化交流談義

朝日地域と西川町の料理伝道師
による郷土料理を食しながらの
交流。

参加者 31 名

ルート名:越後米沢街道・十三峠

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

①本年度は、越後米沢街道・十三峠交流会の事務局であるNPO法人「ここ掘れ和ん話ん探検隊」が越後米沢街道・十三峠及びその周辺の資源について「データベース化する」ことを山形県から重点分野雇用創出事業としての業務を受託しました。

このため、各峠の交流会員はじめ、各自治体、観光協会等には様々なご支援とご協力をいただきその作業をすすめてまいりました。

その結果、「地域資源(景観を含む)のデータベース化」、「ガイドマップの企画立案」等を行った他に、主な峠には「里程標」や「史跡説明板」等を設置し、歩いて楽しい分かりやすく、街道とその周辺から多くを学べる歴史街道をめざして取り組むことができました。

②「越後米沢街道・十三峠」は「越後米沢街道・十三峠交流会」において保存や活用がなされており、十三峠のうち「諏訪」「宇津」「黒沢」「萱野」「大里」の各峠に保存や交流団体が存しています。

そのうち「諏訪峠」はこれまで川西町側のみでの活動でありましたが、本年度より「飯豊町東部地区」においても保存活動がおこなわれましたので、その組織化と十三峠交流会の一員として連携した取組が期待されています。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

①越後米沢街道・十三峠については、これまで各峠や自治体の活動を繋ぐという交流会活動を中心に組織されてきましたが、2県3町1村はじめ13峠の団体が同じ意識のもとで取組をすすめていくことが大きな課題でありました。

また、統一した資料やイベント等により、交流会事業等も連携し一体化させることが求められてきています。

これまでに実施してきた「ボランティアガイド育成事業」についても、各所管の峠や部分的な街道のみならず、案内人(コーディネーター)を中心として、全体を網羅した資料やパンフレット、ガイド組織やイベントが必要になっています。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

本年度の事務局が実施した取組におきまして、越後米沢街道・十三峠周辺の観光、自然、伝統文化等の資源が明確になりましたので、今後交流会におきましては、これらを活用した事業を展開することが求められています。

また、街道資源のなかでも、「何を後世に残すか」というものを絞り込んだ取組が必要となっています。特に歴史的資源は各県や自治体の「文化財」等の指定を受け、行政の責任において保存保管維持修繕等がなられるよう、働きかけを行う必要があります。

また、「観光資源」においては、交流会の取組が、観光やグリーンツーリズムの振興、地域づくりに連動するような支援や連携を模索する必要があります。

さらには、各峠の保存活動を行っている方々は高齢化していますので、この取組を次代に繋ぐ取組も積極的にを行うとともに、地域ぐるみの保存活動やイベントに展開できるよう、交流会活動やその位置付けを明確にして取り組む必要があります。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。



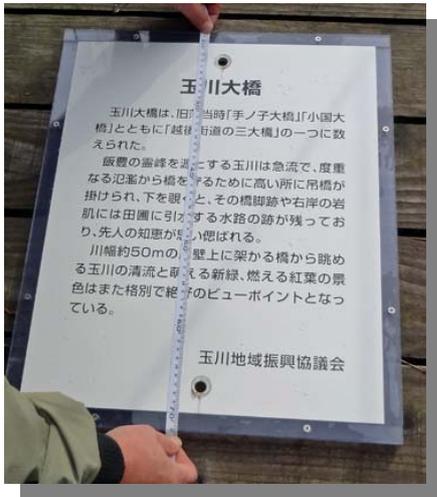
第1回ボランティアガイド学習会 平成23年9月13日(火)
 「講演 越後米沢街道とっておきの話」 越後米沢街道十三峠交流会顧問 井上俊雄氏



第2回ボランティアガイド学習会 平成23年12月16日(金)
 「講演 私のガイド心得」 森林インストラクター 舟山功氏
 「歴史街道・十三峠観光資源活用事業報告」 NPO法人ここ掘れ和ん話ん探検隊



各峠に里程標を設置



主な街道史跡に説明板を設置



パンフレット箱の設置

ルート名：菅江真澄と巡るあきたの道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

新たな取り組みとして、国交省半島振興室の予算で、地元の女性団体の担い手育成をはかった。テーマと菅江真澄の「食」の記録から、新たな特産品開発にチャレンジした。また、6月に東日本大震災を受けて「菅江真澄と地震」というフォーラムを開催した。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

協議会事務局が半島振興室に申請した。その際、取り組み団体として男鹿の女性グループ「子育てカフェ・にこリーフ」をカウンとパートナーにして取り組んだ。フォーラムは地元にある「男鹿市菅江真澄研究会」の主催だった。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

特産はラスク。「おがラシク」というネーミングで、平成24年2月25日に男鹿半島にある「五風」で報告会を行った。今後の課題として常時販売する場所の確保、品揃えの拡大などがある。



※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

ルート名：ふくしま浜街道ハッピーロード

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

・3. 11東日本大震災により、多くの地域住民が避難を余儀なくされており、今後、帰還するに当たって、帰還住民に正しい放射線の知識を理解してもらうため、専門家による講演会開催の活動を行っている。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

・東京電力福島第一原子力発電所事故のため、多くの地域住民が避難を余儀なくされているが、今後計画的に帰還を行うにも、地域住民が正しい放射能・放射線の知識を理解し、真正面から向かい合って行かなくてはならない。そのため少しでも多くの住民に放射能・放射線を正しく理解していただくことを専門家に依頼し、避難所での開催を行った。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

・専門家の講演については、全てボランティアに頼っており、謝金、旅費等の財源確保が必要と考える。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

～東日本大震災における支援活動 ～⑦～

H23.12.10

避難住民のため 児玉龍彦氏講演会を開催

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、避難生活をされている皆さんに、児玉先生のお話を直接聞いていただきたく、いわき市中央台の広野町仮設住宅集会所で実施しました。約50名の住民の方々が参加されました。



○プロフィール

児玉龍彦(こだまたつひこ)

1953年(昭和28年)3月22日生)日本の医学者、生物学者。東京大学アイソトープ総合センターセンター長兼東京大学先端科学技術研究センター教授専門は、内科学、分子生物医学、システム医学領域、血管システム分野。



会場は50名ほどで一杯となり、席を皆さんにつめてもらいながらの、膝突合せての座談会の様でした。放射線の基礎知識から始まり、その質問を受け、さらに双葉郡での除染の現状などに話が進みました。会場からは小さなお子さんのいる方からの質問など、いろいろな質問が出て、それに親切に先生は答えていただきました。

先生の話は放射線知識、除染のみならず健康管理の重要性や避難生活、国の取組、住民の声を上げることの大切さなど、いろいろな面でのお話をして頂きました。

除染だけとかの偏った取組でなく、あらゆる方面の取

※会場の規模の関係で広く告知出来ませんでしたが、今後も先生に講演会をお願いし、双葉郡の住民の方々に正確な知識を提供する機会を作っていきたいと思えます。

～スタッフ～

組をどんどん進めていかなうといけない。

地域住民である私たちが、しっかりと考え・意見を持ち、声を上げ、行動することが必要だと、改めて感じました。

先生は非常にお忙しい方で、講演会の終了後、すぐに20km圏内の線量測定で浪江町に向かいました。献身的に私たち住民のために活動して頂いている先生に、双葉郡住民の一人として深く感謝申し上げます。

～東日本大震災における支援活動 ～⑧～

H23.12.17

避難住民のため
櫻井よしこ氏講演会を開催

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、避難生活を余儀なくされている、双葉郡住民の不安、悩みを少しでも軽減していただき、前向きな気持ちで頑張っていただくため、櫻井よしこ氏の講演会を開催しました。二本松市(安達運動場仮設住宅)、福島市(南矢野目仮設住宅)の2会場で延べ約80名の住民の方々が参加されました。



公益財団法人 国家基本問題研究所理事 櫻井よしこ氏
「今、私たちが出来ることはなにか」
講演会

平成23年 12月17日(土) ※入場無料
午前の部 10:30～12:30
二本松市安達運動場仮設住宅集会所
住所：二本松市安達町字長島2300
午後の部 14:30～16:30
福島市南矢野目仮設住宅集会所
住所：福島市南矢野目字中谷地31

講師プロフィール
・元トヨタ自動車
・新島学園立花高等学校卒業
・ハワイ大学経済学修士卒業
・2011年4月～2012年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2012年4月～2013年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2013年4月～2014年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2014年4月～2015年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2015年4月～2016年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2016年4月～2017年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2017年4月～2018年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2018年4月～2019年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2019年4月～2020年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2020年4月～2021年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2021年4月～2022年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2022年4月～2023年3月 東京電力福島第一原子力発電所
・2023年4月～2024年3月 東京電力福島第一原子力発電所



▲見識の豊かさに加え、判りやすい言葉で語りかけていただきました。



▲放射線をむやみに恐れるのではなく、正しく恐れる。そして、科学的知見に基づいた知識を得ることが大切



▲多くの避難されている方々が真剣に耳を傾けていました。

公益財団法人国家基本問題研究所委員
松田さん・齋藤さん大岩さん
法政大学・帝京大学教授
福岡先生谷本先生にもご参加いただきました。



▲意見交換会の様子



▲櫻井さんに優しいお言葉と笑顔をいただきました。

※今回は浪江町の仮設住宅を対象
としましたが、他市町村での開催
もできればと考えています。
スタッフ

ルート名：桑折宿まちなか街道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

①平成22年度(社)土木学会選奨土木遺産に認定された「西根堰」を活用した、「選奨土木遺産

“西根堰”巡り健康ウォーク」後援・協力

実施日： 8月21日(日) 93名参加

9月25日(日) 95名参加

10月30日(日) 83名参加

②町内にある小径を活用し、健康づくりを目的とした「健康維持・増進の体験講座」後援・協力

実施日： 7月31日(日) 36名参加

9月11日(日) 36名参加

11月20日(日) 28名参加

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

①「選奨土木遺産“西根堰”巡り健康ウォーク」

選奨土木遺産に認定された西根堰を活用し、健康づくりと身近な遺産の再認識を図るため実施した。西根堰のルートについては、福島市飯坂温泉から桑折町まで、松尾芭蕉が歩いた「奥の細道」でもあり、今後、福島市飯坂温泉との連携も図れることから飯坂温泉観光協会の協力も得て実施した。

②「健康維持・増進の体験講座」

桑折町には、「歴史の小径」や「自然の小径」など5つの散策ルートがあるが、あまり活用されておらず、その手段として小径を散策しながら健康維持と増進、生活習慣病の予防と改善等を図ることを目的に実施した。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

2つの事業は、今回、福島県スポーツ振興基金助成事業を活用し実施されたが、次年度以降の予算の見通しが立たず、実施の有無については未定となっているが、参加者の評判もよかったので、実施内容を検討しながら継続したい。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

「選奨土木遺産 “西根堰” 巡り健康ウォーク」

第1回目
8月21日



第2回目
9月25日



第3回目
10月30日



「健康維持・増進の体験講座」

第1回目
7月31日
講義受講



第2回目
9月11日



第3回目
11月20日



ルート名：城下町あいつ道草街道

1. 平成23年度から新たに開始した取り組みの概要

(新たに開始した取り組みが無い場合は、内容が充実されてきている取り組みでも結構です)

①パートナーシップの七日町通りまちなみ協議会が福島県会津若松建設事務所など会津地方の3つの建設事務所および地域づくり団体と連携して、平成23年10月22日に会津五街道シンポジウムと23日に会津五街道ウオーキングを実施した。シンポジウムでは「会津の街道とその周縁」の歴史講演と「健康は歩いてやってくる」の健康講演、さらには歴史街道を活かした地域づくりのパネルディスカッションを開催した。23日の歴史街道ウオーキングは4kmから12kmの6コースで実施され、多くの愛好者が参加した。この事業は平成25年までの3年間を予定している。

②また、七日町通りまちなみ協議会では平成24年3月24日と25日に山形市七日町商店街振興組合との連携で、東北復興イベントを行う。会場は会津若松市で、24日は都市計画家の西郷真理子氏の講演とシンポジウム、出会いと夜の賑わいを創出する「七日町まちコン」を実施。25日は山形と会津若松のB級グルメやアーティストの競演などを行う。

2. 上記1. の取り組みを開始した背景

①会津五街道シンポジウムとウオーキングは東日本大震災後の風評被害を払拭するために、「会津から元気を！」をテーマに、会津特有の自然環境と歴史的文化的資源である「街道」を活用した事業に取り組もうと企画したのもである。

②七日町通りまちなみ協議会と山形市七日町商店街振興組合は同じ名前のよしみから「東北の元気は七日町から！」を旗印に、平成23年11月27日に姉妹商店街を締結した。3月の復興イベントは連携の第一弾の事業として位置づけている。

3. 上記1. の取り組みに関する問題・課題とその対応方針

パートナーシップ組織の脆弱さは以前からの課題であるが、事務局体制がなかなか固定できない点はいまだに解消されていない。また、パートナーシップを構成する団体に温度差があり、まとまった事業に取り組めないのが現状である。七日町通りまちなみ協議会のように風景街道協議会の枠を超えて他の地域づくり団体あるいは行政機関との連携のもとに活動を進めているパートナーシップもあり、すべての構成団体が共同で事業を遂行する環境には至っていない。今後はパートナーシップのあり方を見直し、結局的に活動している団体のみにしぼった組織の改編を真剣に考えていきたいと思っている。

※本様式には、1枚に収まるよう記載下さい。

※また、写真等参考になるものがあれば、次ページに添付してください。

▼ H23年10月22日「会津五街道シンポジウム」の実施状況



▼ H23年10月23日の「会津五街道ウォーキング」の実施状況

